



第3次むかわ町社会教育中期計画 (令和3年度～令和7年度)



むかわ町教育委員会



は じ め に

現在、人口減少社会を迎える中、個人の価値観や生活意識の多様化、高度情報化社会の進展など、私たちを取り巻く社会環境は急速に変化しています。

また、新型コロナウイルス感染症への対応で、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼす中、どのような社会になるのか見通すことも困難な時代へと向かっております。

今後、社会環境が大きく変化していく中、より多様で複雑化する課題と向き合いながら、一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会をつくるために、主体的に学び続けることのできる環境が大切となります。

そのような中、社会教育委員の皆様は昨年6月に諮問し、むかわ町の社会教育を取り巻く現状や課題から、今後の取り組む施策や方向性を盛り込んだ答申をいただきました。

教育委員会ではこの答申をもとに、「第2次むかわ町まちづくり計画」において10年後に目指す町の姿である「人とつながる、笑顔でつながる、未来につながるまち むかわ」を踏まえながら、今後5年間を通じて目指すべき基本方針や施策を示した「むかわ町第3次社会教育中期計画」を策定いたしました。

本計画を町の社会教育推進の指針として施策や事業を展開し、『社会教育』を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくり」を目指し、計画の具体化に取り組んでまいりたいと考えておりますので、町民の皆様のご理解と参画をお願いいたします。

最後になりましたが、本計画を策定するにあたり、ご尽力いただきました社会教育委員の皆様、ならびに計画づくり全般にわたりご指導いただきました北海道立生涯学習推進センター、北海道教育庁胆振教育局はじめ、ご協力いただきました関係機関の方々に心からお礼を申し上げます。

令和3年3月

むかわ町教育委員会教育長 長谷川 孝 雄

むかわ町第3次社会教育中期計画目次

第1章 計画策定の基本的な考え方

第1節 計画策定の意義	P 3
第2節 計画の期間	P 3
第3節 計画の評価	P 3
第4節 計画の位置づけ（全体構造図）	P 4

第2章 基本計画

第1節 計画の重点目標	P 5
第2節 4つのキーワード	P 6
第3節 基本的施策と具体的取組	
（1）生涯を通じて自らすすんで豊かに学ぶ環境づくり	P 7
（2）学校・家庭・地域が連携して、子どもたちを守り育てる地域づくりの推進	P 9
（3）文化芸術・文化財の振興	P11
（4）健康づくりと生涯スポーツの推進	P13

参考資料

1 社会教育委員の会でのグループワーク	P15
2 社会教育委員名簿	P18
3 策定経過	P19
4 むかわ町の社会教育関連施設	P20

第1章 計画策定の基本的な考え方

第1節 計画策定の意義

むかわ町教育委員会は、合併後の平成19年に教育目標を策定し、「海・川・山の豊かな自然を生かし、人間愛に満ちた活力ある「むかわ」の人づくり」を目指し、学校教育と社会教育の両輪で重点課題に取り組んでいくこととしました。

平成23年には社会教育振興計画、平成25年からは社会教育中期計画を定め、生涯を通じ主体的に学習することができる機会の提供や次代を担う人材の育成、そしてその成果が生かされる地域づくりを目指し、着実に実践を積み重ねてきました。

この期間、少子高齢化や人口減少、インターネットの普及等によるグローバル化や高度情報化など、社会の変化が人々の予想を超えて進展しました。

また、人生100年時代、Society5.0^(注1)、新型コロナウイルス感染症への対応など、社会が大きく変化する中であって、今後、より多様で複雑化する課題と向き合いながら、一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会をつくるには、新しい技術も最大限活用しつつ、全ての人が生涯にわたって主体的に学び続けることのできる環境が一層重要となります。

むかわ町教育委員会では、これらの経過を踏まえ、社会の変化や課題に対応する新しい時代の生涯学習・社会教育の更なる振興と推進を目指します。

また、地域資源を活用し、地域における学びの機会を充実させ、多様な世代がつながり、学びの成果を地域の課題解決に生かすことで、次代を担う人材の発掘と育成につなげます。

更に学びを通じた地域づくりに向け、「むかわ町まちづくり計画」との整合性を図りながら、むかわ町社会教育中期計画を定めます。

第2節 計画の期間

計画期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

第3節 計画の評価

取組の実効性を高めるため、成果や課題を分析し改善策を検討する必要があります。

そのために、本計画に基づき年度ごとの実施や進捗状況について、点検・評価を通して施策の効果の検証と改善を図りながら引き続き施策の着実な推進に努めます。

また、社会教育で解決すべき新しい課題の洗い出しなど、社会教育委員の会議において審議を受け、改善を継続します。

注釈1

Society 5.0は、内閣府の第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたものである。これまでの狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」とされる。

第4節 計画の位置づけ

むかわ町社会教育計画の全体構造図

【むかわ町民憲章（平成28年3月27日制定）】

- 自然を愛し、心豊かで、産業を育む活力あるまちに
- みんなが力をあわせ、互いにあいさつと笑顔を交わす住み良いまちに
- 心とからだをきたえ、学びや仕事にはげみ、元気に過ごせるまちに
- 未来を担う子どもたちを見守り育て、生き生きと明るい希望あふれるまちに
- 常に挑戦する気持ちを持って進歩するまちに

【むかわ町まちづくり計画】

〔理念〕

人と自然が輝く清流と健康のまち

〔将来像〕

人とつながる、笑顔でつながる、
未来につながるまち むかわ

〔基本方針〕

- 1 健康でいきいきとした暮らしを創る
- 2 安心・快適な生活環境を創る
- 3 むかわファンを増やし、にぎわいと活力を創る
- 4 楽しく学び、まちを支える人を創る
- 5 みんなで支えあい、明るい未来を創る

【むかわ町教育目標（平成19年3月制定）】

- 1 ふるさとの風土と文化を愛し、未来へ向かって伸びゆくむかわをつくる
- 2 豊かな自然環境を生かし、産業と調和のある郷土をつくる
- 3 働くことの喜びを味わい、創意と工夫で活力あるまちをつくる
- 4 認め合い、はげまし合い、高め合い共生の輪をつくる
- 5 文化やスポーツに親しみ、健やかな心身をつくる
- 6 豊かな心と知恵を持ち、自立した生き方を求め、学び続ける自分をつくる

【むかわ町社会教育目標（平成19年3月制定）】

心豊かにともに支え合い、ふるさとに誇りを持ち、うるおいと活力に満ちたまちづくりを目指す社会教育に努める

【重点課題】

- 1 生涯を通して自らすすんで豊かに学ぶ環境づくりの推進
- 2 ふるさとの歴史や自然に学ぶ、地域文化の継承と創造の推進
- 3 健やかな生活をめざし、みんなで取り組むスポーツ活動の推進
- 4 子どもたちを守り育てる安全・安心な地域づくりの推進

第3次むかわ町社会教育中期計画（令和3年度～令和7年度）

第2章 基本計画

第1節 計画の重点目標

社会が大きく変化する中であって、今後、より多様で複雑化する課題と向き合いながら、一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会をつくるには、ICT 技術も最大限活用しつつ、全ての町民が生涯にわたって主体的に学び続けることができる環境が重要となります。

第3次むかわ町社会教育中期計画策定にあたり、4つのキーワード「はぐくむ（学びの機会）」「いかす（学びの実践）」「つながる（学びのネットワーク）」「ささえる（学びのサポート）」を視点といたしました。

また、本計画の重点目標については、むかわ町社会教育目標の重点課題を継承しながらも、子どもたちを守り育てる安全・安心な地域づくりがより効果的に図られるよう学校・家庭・地域の連携と協働を位置づけ次の4項目を掲げ今後5年間のまちの社会教育・生涯学習の振興と推進を目指します。

1 「生涯を通じて自らすすんで豊かに学ぶ環境づくり」

2 「学校・家庭・地域が連携して、

子どもたちを守り育てる地域づくりの推進」

3 「文化芸術・文化財の振興」

4 「健康づくりと生涯スポーツの推進」

第2節 4つのキーワード

住民アンケートや社会教育委員の会議のワークショップを通して見えてきた、まちの現状や課題解決を図るために示した視点・方向性です。重点目標の達成に向けた基本的方向性、基本的施策、具体的取組実施の際の指標として位置づけています。

【 はぐくむ（学びの機会） 】

生涯学習・社会教育に関係する様々な方々が、横のつながりを大切にし、多様な世代がつながる学びの場と機会の充実を目指します。また、日々の活動において、創意工夫や改善を進めていきながら、他者を理解し受け入れ共生する地域づくりを目指します。

【 いかす（学びの実践） 】

多様な世代の人たちがつながり、共に学び合うことにより、新たなアイデアが生まれ課題解決につながります。学びの成果を自らの日常生活や仕事、そして地域社会に生かすことで「ひとづくり」「まちづくり」につなげることを目指します。

【 つながる（学びのネットワーク） 】

多様な主体の連携・協働を大切にし、学びの活動をコーディネートする人材の育成・活用を目指します。また、対面による「つながり」と、オンラインによる「つながり」、両者をうまく組み合わせることにより、多様な交流を広げ、更に豊かな学びの実現を目指します。

【 ささえる（学びのサポート） 】

地域の多様な人たちが学びやつながりを通して、命を守り誰一人として取り残すことなく、生きがいを感じることでできる地域社会を目指します。また、新たな学習やまちづくり活動のきっかけとなる学習情報提供・共有化を図り、活動交流拠点づくりを目指します。

第3節 重点目標と基本的施策・具体的取組

1 生涯を通じて自らすすんで豊かに学ぶ環境づくり

□現状と課題

これからの人生100年時代において、一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会をつくるために、全ての人が生涯にわたって主体的に学び続けることのできる環境づくりが一層重要となります。近年、町の少子高齢化や地震災害の影響で、社会教育事業が停滞するとともに、高齢者対象の事業も含めて、会員数及び参加者の減少に歯止めがかからない状況が続いています。

また、自治会や町内会活動に参加する町民が少なくなり、世代間で交流できるような機会が減っているのが現状です。

町の豊かな自然環境を生かしながら、多様な世代とつながり、共に学び合うことで、新たなアイデアが生まれることや課題解決につながることを期待されます。

そのためにも、学び合う拠点づくりと機会の提供が必要となり、学びを通して、地域の未来を担う人材育成につなげていくことが大切です。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、既存の事業実施ができなくなる事が今後も想定されるため、遠隔地や自宅からも学びに参加することができるよう、ICTの活用を進める必要があります。

□基本的方向性

☆多様な世代がつながる学習機会の充実や学習成果を生かす環境づくりを目指します。

☆学びを通したネットワークづくりを進め、次代を担う人材の育成を目指します。

基本的施策

具体的取組

(1)多様な学びの場の提供	①ライフステージに応じた学習機会の充実 ②地域学習を通して多様な世代がつながる場の提供 ③ICT を活用した学びの提供 ④学びのコーディネート機能の充実 ⑤高齢者の学習機会の充実 ⑥平和学習の推進 ⑦まなぶ館の運営
(2)学びの成果を生かす 学びの場の推進	①みんなが先生どこでも教室の充実 ②文化祭の開催 ③指導者資格取得への支援
(3)学びを通した コミュニティづくりの推進	①あいさつ運動の推進 ②既存団体との連携活用 ③町内の施設を利用した学びの創出 ④通学合宿の実施
(4)次代を担う人材の 発掘と育成	①ジュニアリーダーコースへの派遣 ②中高生のリーダー養成研修の実施 ③高校生徒寮の運営 ④町少年の主張大会の開催

2 学校・家庭・地域が連携して、 子どもたちを守り育てる地域づくりの推進

□現状と課題

平成 29 年度から総合的な学習の時間に、地域をキャンパスとして、探究活動につなげるために、地域の住民等が講師となり授業を行う「むかわ学」の活動が鷗川高校から始まりました。

平成 30 年度からは鷗川中学校、令和 2 年度からは町内全ての学校において「むかわ学」に取り組んでいます。

また、平成 30 年度からは、鷗川地区と穂別地区のそれぞれにおいて「コミュニティ・スクール」の取組が始まり「地域に開かれた学校づくり」に向けた機運が高まりつつあります。

地域と家庭をつなぐ取組として、通学合宿を継続している一方、家庭教育については、就学時検診を利用した子育て講座を開設する等にとどまっています。

読書活動の推進については、図書館(室)において、学校図書室とも連携し体制強化を図ってきました。

また、読書感想文コンクールを継続して実施していますが、家庭での読書時間が少ない傾向があり、子どもの読書離れが進んでいることから読書を習慣化させる取組が必要です。

近年、小中学生がテレビやゲーム、パソコン等を利用する時間が増えてきていますが、単純に利用を制限するのではなく、家庭での正しいルール作りなどを啓発していく必要があります。

□基本的方向性

☆地域の学習資源を生かし、ふるさと「むかわ」への愛着や誇りを育む教育を推進し子どもたちの「生きる力」をより一層育むことを目指します。

☆地域全体で家庭教育を支え、子どもたちを守り育てる安全・安心な地域づくりを目指します。

基本的施策

具体的取組

(1) 地域と学校との つながり

① むかわ学の推進

- a 人材育成につながる学習機会の充実
- b 学びを通じたつながりづくりの推進
- c 放課後子どもセンター事業との連携

② 地域学校協働活動の推進

- a コミュニティ・スクールとの連携
- b 学校の授業への講師派遣支援
- c 学校と地域を結ぶコーディネート機能の充実
- d 高校魅力化への支援

③ 防災学習の実施

(2) 地域と家庭の 教育力向上

① 家庭教育講座の実施

② 補導委員会の設置運営

③ 青少年の体験活動の実施協力

④ 通学合宿の実施（再掲）

(3) 読書に親しむ 環境づくり

① 読書感想文コンクールの実施

② 読書普及事業の推進

③ 学校図書室への支援



3 文化芸術・文化財の振興

□現状と課題

本町の文化芸術活動は、町文化協会が中心となり、地域や学校との協働により文化祭やイベント運営等を行ってきました。

しかし、少子高齢化により、担い手の高齢化が進み、本町の文化芸術活動の継続に影響を及ぼしています。

また、慢性的な担い手不足、後継者不足により、本町住民の文化芸術活動の活動規模が縮小しています。

今後は幅広い世代が文化や芸術に触れ合い、共に学び、教え合える機会を増やしたり、若い世代が文化芸術活動に気軽に参加してもらえたりするきっかけづくりが必要です。

地域文化財は、穂別産化石を中心とする地域の魅力向上や町指定文化財の拡充が継続的に行われています。

しかし、町の歴史や先史文化、アイヌ民族の伝統文化など、社会文化的な町の成り立ちを伝える文化財の保護と活用が十分ではありません。

豊かな自然や文化財等の地域資源を通じて、郷土を学び育む機会を充実させるとともに、地域の歴史や魅力を磨き上げ、発信することが必要です。

□基本的方向性

☆地域文化財の保護と活用を図り、芸術・文化に触れる機会や学ぶ機会の充実を目指します。

☆地域文化の継承と後継者育成に努め、主体的な文化活動の推進を目指します。

基本的施策

具体的取組

(1) 芸術・文化活動の推進	①芸術鑑賞事業の推進と支援 ②文化祭の実施支援 ③文化団体等への支援
(2) 地域文化財の保護と活用	①町の歴史や文化を伝える取組の実施 ②文化財や郷土資料の普及事業の推進 ③アイヌ文化伝承活動の支援 ④郷土資料の掘り起こしと磨き上げ ⑤文化財の計画的な調査等の実施
(3) 恐竜等古生物化石の普及と活用	①恐竜等古生物化石の町民への普及 ②恐竜等古生物化石の学習への支援 ③穂別博物館の普及活動の充実

むかわ町の指定文化財一覧

国指定

【重要無形民俗文化財】アイヌ古式舞踊※¹

【登録有形文化財】旧中村平八郎家住宅主屋、旧国鉄富内線富内駅舎

旧国鉄富内線富内駅プラットフォーム、旧国鉄富内線富内駅構内線路

道指定

【史跡】鷗川盛土墳墓群

【天然記念物】ホベツアラキリュウ化石※²

むかわ町指定

【有形文化財】第1号 鷗川大漁地蔵尊 第2号 聖観世音菩薩像

【記念物】第4号 フォスフォロサウルス・ポンペテレガンズ

第5号 モササウルス・ホベツエンシス

第6号 メソダーモケリス・ウンデュラータス

第7号 アノマロケリス・アングラータ

第8号 ティロサウルス

第9号 モササウルス・プリズマティクス

第10号 ケントリオドン・ホベツ

第11号 カムイサウルス・ジャポニクス※³

※¹ ユネスコ無形文化遺産

※² 町指定文化財第3号から道指定文化財へ変更(H29.9.29 付)

※³ 恐竜化石

4 健康づくりと生涯スポーツの推進

□現状と課題

本町では平成23年度からコーディネーショントレーニング(COT)を重点的に取り入れ、セミナーの実施、学校体育での取組、放課後子ども教室での運動教室の開催、介護予防のための高齢者向け事業の実施等、幅広い世代に向けたプログラム構築に向けて取り組んでいます。

競技スポーツでは、多くのオリンピック選手やプロ選手としての活躍が期待されている人材を輩出していることから、今後も、日本や世界で輝く選手を育成するために、町のスポーツ環境の充実を図る必要があります。

近年は少子高齢化により、少年団活動やクラブ活動が減少傾向にあり、やってみたいスポーツがあっても、できる環境が少なく情報発信も弱い状況です。

また、団体主催の大会やイベント、他種目との交流も減少しており、共働きの増加など生活スタイルの変化に伴って、大人がスポーツに親しむ人も減っています。

今後は、気軽にできるスポーツの普及に向け、イベントやスポーツ教室を通して、誰もができるスポーツ機会の充実を図る必要があります。

また、指導者の育成や各団体への支援も必要です。

□基本的方向性

☆ライフステージに応じて、気軽に楽しめるスポーツや健康づくりの機会の充実を目指します。

☆スポーツ団体・指導者の育成に努め、スポーツ活動の底辺拡大とスポーツ環境の充実を目指します。

基本的施策

具体的取組

(1)生涯スポーツの推進	①健康づくり事業の実施 ②町民が参加できるスポーツ大会や教室の実施 ③COT の普及 ④地域の特色あるスポーツの普及
(2)競技スポーツの振興	①スポーツに関わるきっかけづくり事業の推進 ②各種スポーツ大会への選手派遣支援 ③青少年のスポーツ環境の充実
(3)支援体制の充実	①少年団活動の推進 ②スポーツ指導者の育成と支援 ③体育協会への支援 ④NPO 法人「むーブ」への支援 ⑤学校部活動への支援の検討
(4)生涯スポーツの 環境づくり	①各種スポーツ施設の運営と計画的改修 ②学校体育施設の開放事業の実施



参考資料

資料1 社会教育委員の会でのグループワーク

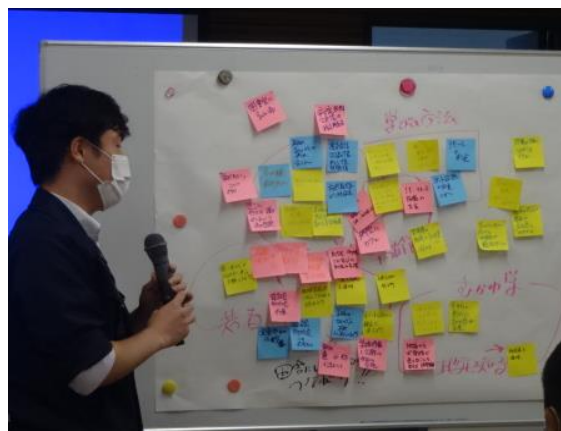
①令和2年10月13日（火） 穂別町民センター



第3次むかわ町社会教育中期計画策定に向けて、北海道立生涯学習推進センターと連携し地域課題解決を施策化・事業化するための専門的な知識・技術の習得を図る研修会として位置付け、計3回の生涯学習推進専門講座を開催した。

はじめに生涯学習推進センターから「社会教育策定の意義と地域課題の解決に向けた施策化・事業化」についての説明と道内先進地の参考事例の紹介をしていただいた。

ワークショップでは、「地域課題を把握し5年後の町のあるべき姿」と題して、グループ発表を通して全体の意見を共有することができ、まちの問題と課題、ビジョンとミッションの明確化・共有化することの大切さに触れることができた。



～演習を終えての感想～

- ・ 漠然と感じていたことが協議を通して明確化した。
- ・ 皆が真剣に町の未来について考えていることを痛感した。
- ・ 全体の意見を形にして町の活性化につなげていきたい。

②令和2年11月17日（火） むかわ町産業会館



第2回の講座は、オンラインで生涯学習推進センターと会場をつなげて講座を実施した。町で取り組んでいる学びの教材「むかわ学」の動画配信について触れ、現在のコロナ禍において、距離や時間の制限がある中、オンラインを活用して住民のニーズに応えることの重要性について確認した。

演習では住民からのアンケートの分析結果や、前回の演習を通して浮かび上がる4つのキーワードである「①学びの機会」「②学びの実践」「③学びのネットワーク」「④学びのサポート」を視点にしながら演習に取り組んだ。

助言では、取組を実施していく上で、振り返ることの大切さについてのお話をいただいた。



～演習を終えての感想～

- ・グループ内の討議が活発であった。
- ・目的を持った活動をしなくてはならない。
- ・様々な意見が出たが、実現可能だと思うので、少しでも実現できたらと思う。

③令和2年12月23日（水） むかわ町産業会館



第3回目は、前回までの研修での意見等を踏まえ、『目指す姿』を共有しながら計画案をつくろう」をテーマでワークショップを実施。積極的に質問や意見を出し合い、グループ発表を通して全体の意見を共有した。

また、評価の在り方について、今後の計画策定に向けて、事前に評価方法を仕込んでおく事の必要性についても理解を深めた。

今後も「まちの未来のために、職員と社会教育委員が連携強化を図ることの大切さ」について確認し全3回の講座を振り返った。



～演習を終えての感想～

- ・ むかわ町の活性化に寄与する社会教育の在り方について考える機会になった。
- ・ これまでと違うグループでの話を聞く事ができ、計画策定に向けての全体像が見えてきた。
- ・ 今後も計画内容を行政担当者と委員の皆さんがしっかり共有し、当事者意識が持つようになることを期待したい。

資料2 社会教育委員名簿

	氏 名	所 属
1	田 口 秀 吉	委員長・むかわ町子ども会育成連絡協議会
2	牛 澤 亜弥子	副委員長・学識経験者
3	佐々木 秀 人	むかわ町校長会（穂別小校長）
4	金 澤 堅 一	むかわ町教頭会（宮戸小教頭）
5	三 村 素 道	北海道鷗川高等学校（校長）
6	小 野 達 彦	北海道穂別高等学校（校長）
7	門 村 敏 行	むかわ町スポーツ推進委員
8	久 保 和 将	むかわ町体育協会
9	越 前 一	むかわ町文化協会
10	土 屋 祐 規	むかわ町PTA連合会
11	稲 本 昌 子	むかわ町女性連絡協議会
12	門 馬 俊 樹	むかわ町連合青年団
13	清 本 正 敏	学識経験者
14	阿 部 斎 木	学識経験者
15	紀 藤 康 宏	学識経験者

資料3 策定経過

期 日	審議等の内容
令和2年 6月26日(金)	むかわ町教育委員会（諮問）
令和2年 7月14日(火)	第1回社会教育委員の会 ・委嘱状交付、会長、副会長の選任 ・むかわ町社会教育中期計画策定について
令和2年 8月1日(土) ～8月31日(月)	住民向けアンケート調査の実施
令和2年 10月13日(火)	第2回社会教育委員の会 ・第1回「地域リーダー育成」研修会(第1回生涯学習推進専門講座) テーマ「地域課題を把握し5年後のまちのあるべき姿を共有しよう」 4つの大きな柱 現状と課題の共有と解決策向けて演習 講師 北海道立生涯学習推進センター主査 久末考勇氏 助言 胆振教育局教育支援課社会教育指導班主査 佐々木 憲一氏
令和2年 11月17日(火)	第3回社会教育委員の会 ・第2回「地域リーダー育成」研修会(第2回生涯学習推進専門講座) テーマ「期待する事業を具体化していこう」 重点目標と4つのキーワードについて、施策実施に向けて演習
令和2年 12月23日(水)	第4回社会教育委員の会 ・第3回「地域リーダー育成」研修会(第3回生涯学習推進専門講座) テーマ「『目指す姿』を共有しながら計画案をつくろう」 計画案策定に向けて演習
令和3年 2月16日(火)	第5回社会教育委員の会 ・修正した計画案の承認
令和3年 2月25日(木)	むかわ町教育委員会（答申）
令和3年 3月4日(木) ～3月18日(木)	パブリックコメント実施
令和3年 3月25日(木)	むかわ町教育委員会 第3次むかわ町社会教育中期計画決定

資料４ むかわ町の社会教育関連施設

【スポーツ施設】

	施設名	住 所	連絡先
1	鷗川町民体育館	文京 3 丁目 4 番地	0145-42-2970
2	鷗川運動公園パークゴルフ場	田浦 34 番地 13	090-6216-4488(シーズン中のみ)
3	鷗川テニスコート	文京 4 丁目 2 番地	0145-42-2487(社会教育 G)
4	むかわ町ゲートボール場	大原 2 丁目 2 番地 1	0145-42-5025
5	田浦野球場	田浦 29 番地 2	0145-42-2487(社会教育 G)
6	田浦第 2 野球場	田浦 18 番地 9	0145-42-2487(社会教育 G)
7	鷗川スケートセンター	大原 1 丁目 48 番地 1	0145-42-4155(シーズン中のみ)
8	穂別スポーツセンター	穂別 449 番地 4	0145-45-3430
9	穂別ふれあいパークゴルフ場	穂別 2 番地 1	0145-45-2113(教育振興室)
10	穂別テニスコート	穂別 449 番地 4	0145-45-2113(教育振興室)
11	穂別水泳プール	穂別 80 番地 2	090-6085-1973(シーズン中のみ)
12	穂別野球場	穂別 448 番地 9	0145-45-3430
13	穂別スケートリンク	穂別 466 番地 1	090-6085-1976(シーズン中のみ)
14	穂別スキー場	穂別 604 番地 1	090-6085-1973(シーズン中のみ)

【社会教育施設】

	施設名	住 所	連絡先
1	生涯学習センター「報徳館」	二宮 315 番地 2	0145-42-2487(社会教育 G)
2	学習交流センター「まなぶ館」	福住 2 丁目 180 番地	0145-42-2487(社会教育 G)
3	まなびランド図書室	美幸 3 丁目 3 番地	0145-42-5057
4	むかわ町穂別図書館	穂別 80 番地	0145-45-2396
5	むかわ町穂別博物館	穂別 80 番地 6	0145-45-3141
6	むかわ町郷土資料保管庫	美幸 3 丁目 3 番地 1	0145-42-2487(社会教育 G)
7	むかわ町中村記念館	穂別 80 番地 2	0145-45-2113(教育振興室)

【高校寮】

	施設名	住 所	連絡先
1	鷗川高等学校生徒寮 (鷗川三氣塾)	文京 1 丁目 18 番地	0145-42-2404
2	穂別高等学校生徒寮 (穂別穂星寮)	穂別 125 番地 1	0145-45-2090



むかわ町第3次社会教育中期計画
令和3年3月

発行 むかわ町教育委員会
〒054-8660 勇払郡むかわ町美幸2丁目88
TEL 0145-42-2487
FAX 0145-42-4994